

ひとを育てる活動

学校の先生になりたい！

—後輩たちのあこがれ公立学校教師—

山の子どもたちに将来の職業を聞くと大抵「学校の先生」を挙げます。唯一教師が身近にいる教育を受けた大人ということなのでしょう。現カレッジ奨学生の専攻も一人を除きすべて教職課程です。予算の関係で4年制大学の枠に入れず、やむなく2年制の車整備コースに進んだものの、できれば4年制に編入したいと教師の夢をあきらめきれない奨学生もいます。2年前に国家試験に合格した2名を含めて、今年は計4名が公立小学校で教鞭をとっているという身近な先輩の活躍が強いインパクトとなっているようです。



週末、仕事を終えて学生寮に集まった同窓会幹事

ノビシエートに滞在中、これら公立小で働くエドウィン、メリアンを含む合計6名が集まって同窓会の役員会がありました。次回の第3回奨学生同窓会の開催日を12月26日と決めた後、懸案の「会費を集めて、後輩の小学生1名を支援する」について話し合いました。先輩格のメリアンが、公立校の給与は少なくはないが、今は自分の弟妹の学費の面倒をみるので精いっぱいと言明して理解を求めたところ、状況は誰も同じらしく、今年度は実施しないとあっさり決まりました。

これまで助産師、看護助手、農学部等、カレッジや専門学校各コース修了者は30名を超えますが、教師以外で定職に就いたものはわずかです。教職課程に学んで「学校の先生になりたい」と思う子どもたちの気持ちはわかる気がします。

この3月に卒業する6名(うち1名は会計士コース)について国家試験の補習受講及び受験費用を含む経費の支援要請が届きました。予算は合計約30万円です。今回も助成金により応援できたらと思います。

ブラクール校の奨学生の現況報告

—ベルマリンとマルビル—

62号でもご報告のように、2010年度のブラクール校支援は18名の会員の支援金33万円を小学校教師5人の給与にあてるという学校運営への協力ですが、特に貧しい家庭の子どものについては、HANDS奨学生(教育里子)として、制服代や教材費などが免除される仕組みになっています。暮れにその子どもたちの現況報告が届きました。ここでは特定の支援者がいない全体支援の子ども二人について紹介いたします。

* * *

*ベルマリン(写真左):ハイスクール2年です。勉強、課外活動ともに頑張っていますが、母親が交通事故死したため、弟妹の世話に時間がとられて、勉強の時間がとれないのが悩みです。将来は職業教育で覚えた縫製や食品加工技術で自立したいと思っています。

*マルビル(右):勉強は中の上。民族楽器の演奏が得意です。3月の学年末試験ではどの教科も75点以上とって5年に進級したいと頑張っています。(文責・山崎)



< 教育支援 TOPICS >

*カルメラが(社)大学女性協会東京支部の奨学生に決定:卒業までのあと3年間、年2万円の奨学金を受給の予定です。(P4参照)

*マラパタン町ナブル村でCMIP 7校目の小学校(分校)の建設開始:ピラーンの未就学児100人がいる山深い村に、HANDS団体会員の鎌ヶ谷市国際文化交流会(ICECK・代表太田尻氏)の支援で学校ができます。6月開校の予定です。

*「先住民族の医師育成計画」その後:カレッジ奨学生アナリンに代わる候補ローナさんに会いました。カレッジ在学の第2人の支援が終わって、看護学校講師や村の保健師研修などの仕事の区切りがついたら、是非医師を目指したいと前向きでした。非常に優秀でピラーンの仲間のために働きたいという意欲も十分な24歳の女性です。